教科書Unit.35-２　4年　わり算のひっ算
あまりのあるわり算のひっ算

例題と解説

例題１

アとイにあてはまる整数を求めなさい。

（１）　13÷5＝[ア] あまり [イ]

（２）　86÷9＝[ア] あまり [イ]

（３）　137÷11＝[ア] あまり [イ]

答え　（1）ア　2　，　イ　3（2）ア　9　，　イ　5（3）ア　12　，　イ　5

[例題１の解説]

（１）　13の中に5は2個入って、3あまります。　13÷5＝2あまり3
わり算での答えを「商（しょう）」といいます。
アが「商」、イが「あまり」です。

（２）　9×9＝81なので、86の中に9は9個入って、5あまります。　86÷9＝9あまり5

（３）　ひっ算①のように商が12であまりが5となることがわかります。
137÷11＝12あまり5

ひっ算②のようにあまりがわる数よりも大きくなるのはまちがいです。
あまりはわる数よりかならず小さくなります。

①

```
      12
11 ) 137
     11
     27
     22
      5
```

あまり
27－22＝5

②

```
      11
11 ) 137
     11
     27
     11
     15
```

あまり
27－11＝15

ポイントまとめ

・わり算での答えを「商（しょう）」といいます。
・あまりはわる数よりかならず小さくなります。

(C) 2014 min-san.com